



25. 岡山市立内山下小学校原票



26. 日露戦争記念樹碑



27. 内山下小学校校訓碑



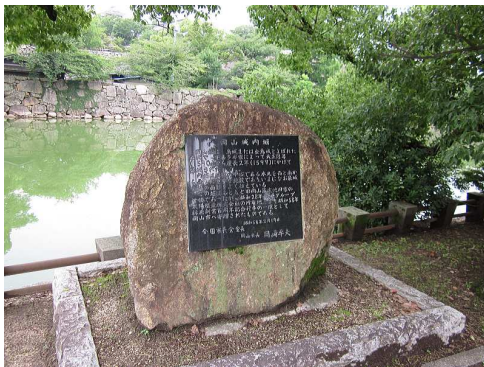
30. 池田光政公御居間址碑



31. 国寶 岡山城西丸西手櫓碑



34. 明治天皇臨幸記念碑



40. 岡山城内堀碑



46. 岡山市立丸の内中学校跡地碑

岡山城主要部内の案内板等



3. 岡山城案内板



4. 岡山城の歴史を今に (2箇所)



5. 岡山城周辺観光案内図



9. 烏城公園案内図



11. 岡山城月見櫓説明版



12. 表書院跡説明板 (2箇所)



14. 岡山城の沿革



城郭遺構の説明板 (2種類が混在)



23. 池田光政公隠居所跡説明板



24. 岡山城跡について説明板



32. 岡山城西丸西手櫓説明板



33. 岡山城西丸西手櫓説明板



35. 岡山城城郭配置図・二の丸説明板



36. 岡山城石山門跡説明板



45. 岡山城内堀跡・外下馬門跡説明板

人物關係碑等



2. 劍豪奧村寅吉翁之壽碑



7. 笠井信一先生像



28. 岡村正義先生像



29. 二宮金次郎像



41. 岡長平墨蹟碑



43. 健忘齋 中川横太郎君之碑



42. 山羽虎夫像

建築物等



47・48. 中区維持管理事務所と車庫



49. 公衆トイレ（内下馬門内）



50. 公衆トイレ（月見櫓下）



51. 月見櫓防災設備消火ポンプ室



52. 消火ポンプ室



52. 消火ポンプ室



53. 観光ボランティア案内所

(7) 岡山城の活用状況

①天守閣の現況

昭和41年（1966）に再建された天守閣の内部は、岡山城と城主の歴史を紹介する資料館として活用され、常設展示のほか、春と秋の年2回、特別展が開催されている。

表2-7：岡山城天守閣の常設展示内容

● 地階	戦国時代の紹介
● 1階	備前焼工房、飲食施設、売店
● 2階	体験コーナー（時代衣装、大名駕籠）
● 3階	岡山城の人間模様、宇喜多・小早川期の歴史展示
● 4階	岡山城の特徴、城にまつわる逸話
● 5階	宇喜多直家の紹介
● 6階	展望室

②岡山城の入場者数

岡山城天守閣の入場者数は、ここ10年でみると、対前年で減少した年もあったが、増加傾向にあり、平成24年は約20万人の入場者があった。隣接する後樂園が年間70万人前後の入園者を数えているのに比べ、その3分の1以下と、かなり開きがあるが、平成19年（2007）にJ R西日本が行ったデスティネーションキャンペーンの影響により増加した翌年度から、後樂園が減少しているのに対し、岡山城は増加傾向が続いている。

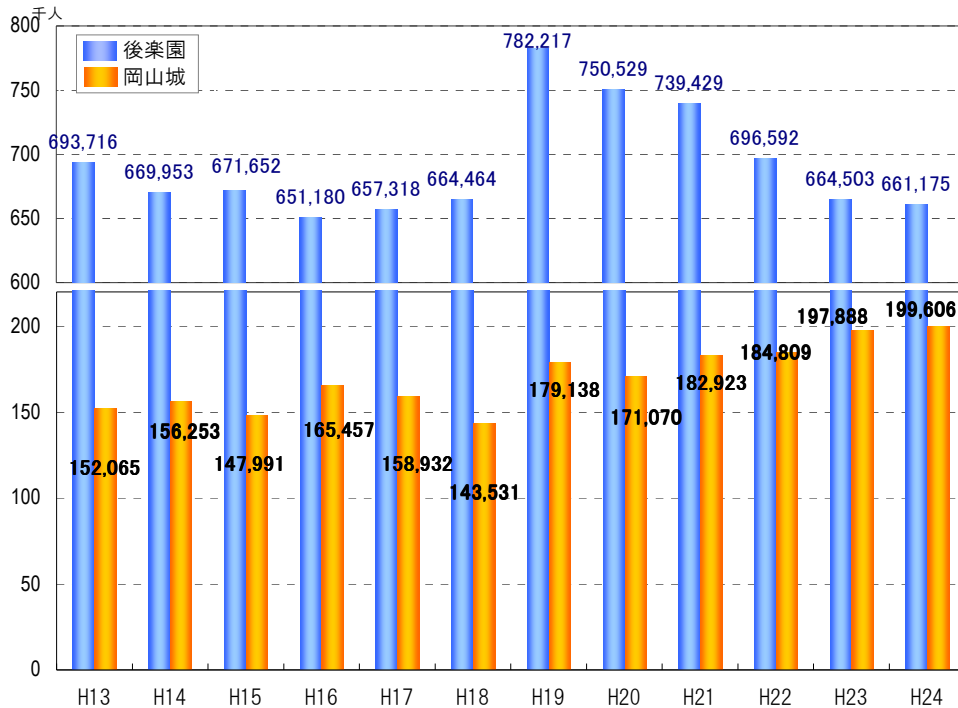


図 2-14：岡山城と後樂園の入場者数推移

全国的に見ると、全国城郭管理者協議会加盟城郭（47 城）の中では、平成 24 年入場者数は 20 番目である。上位には、著名な観光地に立地する城（首里城・二条城）、大都市に立地する城（大坂城・名古屋城）、国宝天守が残る城（松本城・姫路城・彦根城・犬山城）、国の重要文化財天守が残る城（松山城・弘前城・高知城・松江城）が名を連ねており、上位 20 城のうち、犬山・岡崎以外の全ての城が国の史跡に指定されている。

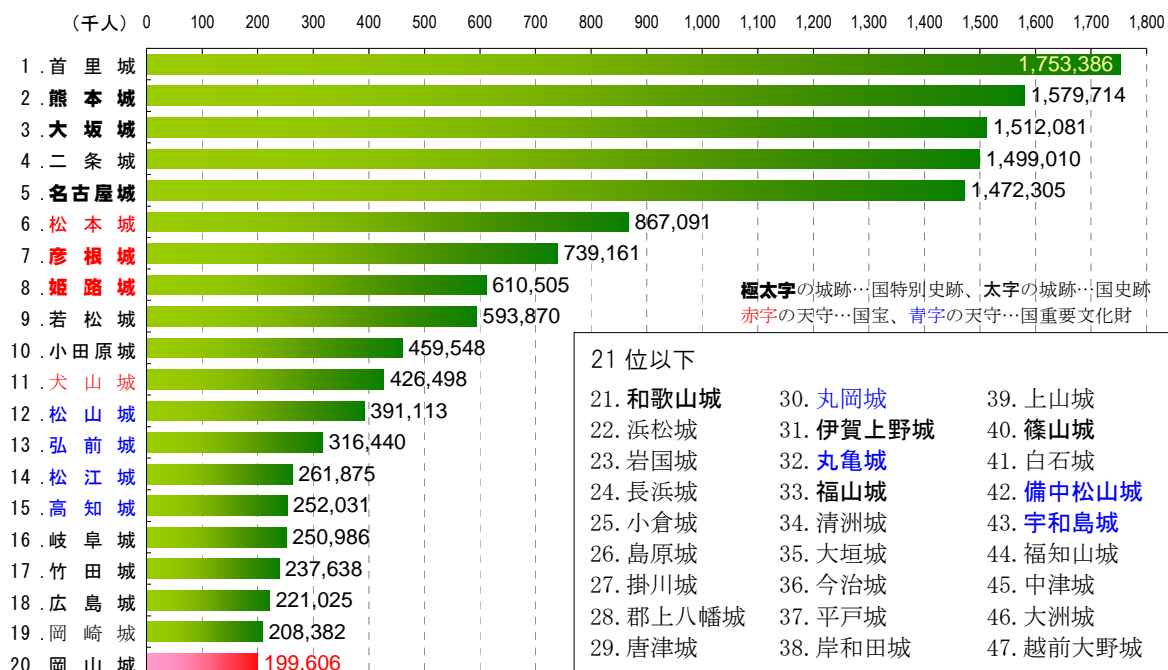


図 2-15：平成 24 年の入場者数順位（全国城郭管理者協議会加盟城郭）

③重要文化財月見櫓・西の丸西手櫓の活用状況

本丸に立地する月見櫓は、毎年 1 回、11 月 3 日の文化の日前後に期間限定で一般公開されている。所在地が長く学校であった西の丸西手櫓は定期的に一般公開されることはなく、平成 9 年（1997）に開催された岡山城築城 400 年記念事業の一環で臨時に公開された。

④烏城公園を利用した主なイベント

烏城公園として整備されている本丸内においては、市を代表するまつりであるおかやま桃太郎まつりをはじめ、さまざまなイベントが開催されており、年間を通じて賑わいの場、市民の憩いの場となっている。

表 2-8：烏城公園を利用した主なイベント

開催時期	イベント名	主催団体
1 月	烏城初夢まつり	おかやま城下町物語実行委員会
5 月	烏城おしろあそび	おかやま城下町物語実行委員会
8 月	烏城灯源郷	おかやま城下町物語実行委員会
10 月	宇喜多秀家★フェス	岡山商工会議所

2) 城下町の現状

(1) 出石町（上出石町・中出石町・下出石町）

出石町は昭和 20 年の空襲にも大部分が奇跡的に焼失を免れ、そのため戦災復興区画整理も実施されなかったため、古建築や、城下町以来の道筋がそのまま残されていた。しかし、新鶴見橋の開通により町域が南北に分断され、また建築物の建替えが進み、古建築は徐々に姿を消している。さらに住民の高齢化が進み、跡継ぎのいなくなった家が空き家となっている例も散見される。ただ、細く入り組んだ道筋は健在で、独特の雰囲気をもつ路地裏空間を生み出している。



昭和 40 年代の津山往来沿いの出石町二丁目の街並み（左）と、現在の同地（右）



出石町一丁目の街並み



明治期の建築（左）と大正期の建築（右）

(2) 石関町

町域内にあり、岡山開府以来の歴史を誇る岡山神社の随神門は戦災を免れ、市の重要文化財に指定されている。ただ、それ以外の建物は戦災に遭ったため戦後の建築であり、大通りに面した建物は高層化が進んでいる。また、旭川への築堤と公園建設により、川沿いは地形が大きく変化している。市の中心部は昭和 30 年代後半から住居表示が実施され、城下町に由来する多くの町名が姿を消し、また町名は残っても区域が変化している例がほとんどであるが、石関町は変化がない数少ない町のひとつである。



岡山神社



岡山神社随神門（市重要文化財）

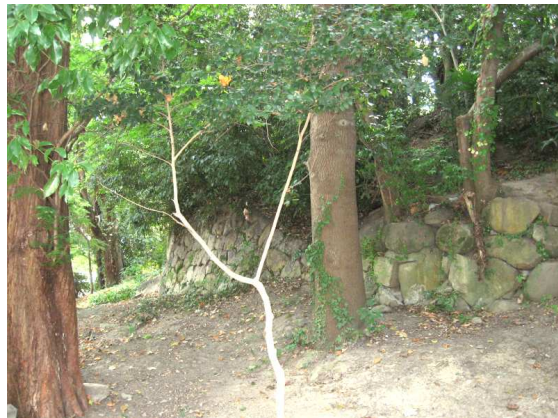
(3) 三之曲輪（表町・天神町）

三之曲輪は、城下町開府以来、表町商店街と名を変えた今日に至るまで城下商業の中心地としての役割は変わっていないが、戦災により灰燼と化したため、往時の面影を伝える建築物は残っていない。伝統の町名も住居表示の実施により全て姿を消し、商店街名に名残を留めるのみとなっている。ただ、区域内の道筋は、桃太郎大通りや城下筋を除けば、概ね城下町時代の街路を踏襲している。栄町の南東角にあった城下町に時を告げる3階建ての鐘撞堂は、明治以降も商店街の“ランドマーク”となっていたが、戦災で町と運命を共にした。現在は岡山シティミュージアムに5分の1の精巧な復元模型が展示されている。

曲輪北端の天神山の鴨方池田家屋敷跡には明治12年（1879）に県庁が置かれ、その南には一時期「亜公園」と呼ばれる娯楽施設があったが、短期間で閉鎖され、県議会議事堂や県警察署の用地となった。戦後県庁は移転し、天神山一帯は警察署・国機関・文化施設用地として利用され、現在は天神山文化プラザ、県立美術館、市立オリент美術館が建ち並び、岡山カルチャーゾーンの一角を形成している。



鐘撞堂の古写真（左）、復元模型（右）



天神山に残る石垣

3. 課 題

①本丸整備の着実な実施

岡山城跡の中核は本丸であり、史跡指定以降、整備事業を進めているところであるが、整備が完了しているのは中の段のみである。既存運動施設を撤去した下の段については、整備事業が進行中であるが、早期の整備を望む声も多く、着実に整備を進めていく必要がある。また、滞水状態となり、水質汚濁が著しい内堀の浄化対策も継続して大きな課題である。

②岡山城郭遺構の保護

岡山城跡は、本丸はほぼ全域が国の史跡に指定され、城郭遺構の保護が図られているが、二の丸（内屋敷）内の国史跡指定は旧本丸と県立図書館敷地内の外下馬門周囲の石垣のみのごく一部にとどまっている。西の丸や対面所跡等の石垣が良好に遺存している箇所のうち、特に市有地については、史跡の追加指定等により、遺構の保護を図っていくことが必要である。

③建築物の復元・改修

岡山城跡の建造物は、現存する月見櫓、西手櫓以外にも、昭和期まで、天守閣、石山門（以上昭和 20 年戦災焼失）、池田光政隠居の間（学校校舎新築のため昭和 6 年撤去）が残されていた。明治以降も長く市民に親しまれてきたこれらの建築物や、大納戸櫓のような小天守ともいふべき象徴的な建築物の復元は、岡山城の文化財的価値を高め、またシンボル性を高める上でも検討が必要である。

また、天守閣については、昭和 41 年に鉄筋コンクリート造により再建され、城のシンボルとしての役割を果たしているが、旧来の天守と比較すると、鉄筋コンクリート造という制限があったとはいえ、外見上細部の意匠の誤りが多く見られる。このため、今に残る実測図や古写真を基に、今後の天守閣のあり方について検討していく必要がある。

④城跡としての風致の維持と景観の保全

岡山城跡は本丸以外、ほとんど市街地化している。区域が一致していないが、城跡内あるいは後樂園近接地であることから各種指定及び決定（国史跡、都市計画公園、風致地区）が成されている。また、電線・電柱の地中化や、歩道の設置等については、烏城みち等主要な道路においては実施されているものの、面的な実施にはいたっておらず、城郭内であるという特別な配慮はされていない。少なくとも、本丸及び二の丸内屋敷内については、城郭内であることに配慮し、その風致の維持と景観の保全のため、統一したルールを基に

まちづくりを進めていくことが必要である。

⑤城内にふさわしい工作物・施設のあり方の検討

現在、岡山城内、特に史跡指定地である本丸内には数多くの工作物や城郭建築以外の建造物がある。城の価値を高めるためには、これらの工作物等が城内という特殊な場所にあることを最大限に考慮し、設置されなければならない。またその意匠や設置場所等については、今後、現在史跡指定済みの地域に限らず、その周辺地も含めて基本的なルールの策定が必要である。

⑥城郭の「見える化」

二の丸内屋敷の中でも、日本丸跡（駐車場：国史跡指定済み）、対面所跡（林原美術館）及び西の丸跡（旧内山下小学校跡地）は、その周囲を囲む石垣が良好に残され、また西の丸跡には国の重要文化財に指定されている西手櫓も遺存している。しかしながら、周囲に道路等を挟むことなく中高層の建物が密接し、石垣や櫓を覆い隠している箇所があり、城郭が市街地に埋没している。岡山城の存在感・シンボル性を高めていくためにも、こうした城郭遺構の「見える化」について検討を進めていくことが必要である。

⑦岡山カルチャーゾーンの魅力アップと回遊性の向上

岡山城は市民にとっての憩いの場であるとともに、後樂園と並ぶ岡山カルチャーゾーンの中核施設であり、岡山市の観光のシンボリック存在でもある。しかし、入場者数を後樂園と比較すると、後樂園約70万人、岡山城約20万人（ともに平成23年度）と、3倍以上の開きがある。ハード・ソフト両面から岡山城の魅力を高め、後樂園と岡山城間の回遊性を向上させ、また、後樂園の「門前町」である出石町界わいの賑わいを創出することなどにより、観光地としての岡山カルチャーゾーンの魅力アップを図っていく必要がある。

⑧市有地の有効活用

岡山城二の丸内屋敷内の市有地（旧内山下小学校跡地、旧NHK岡山放送会館跡地及び市民会館）については、歴史資産に配慮しながら、カルチャーゾーンの魅力アップや回遊性の向上に資するように有効に活用していく必要がある。

